2022年9月豊洲キャンパス本部棟オープン

芝浦建築会 2023

会報

VOL. 2

volume 2

https://sit-archi.com

◎芝浦建築会　会報第二号　2023年11月30日発行

芝浦建築会
2023

C O N T E N T S

会長挨拶	卒業生の拠り所となる卒業生の会『芝浦建築会』	切刀　強	3
校友会寄稿	「芝浦建築会　会報（第２号）」に寄せて	加藤　善次郎	4
卒業生の輪	学部時代から現在まで	水谷　晃啓	5
	わたしの現在地／知	若林　拓哉	5
	多様性を育む、場と教育　～銭湯的空間を目指して～	加藤　優一	6
	まちの生態系の編み目としての建築	冨永　美保	7
	“建築とテクノロジー” なキャリア	中島　貴春	8
	建築を引退して思う事	塚の目　栄寿	8
	設計者として、経営者として、今後の展望	下田　恭子	9
	独立して５年目に振り返って	徳田　直之	9
	芝浦建築会の未来の一員として	井筒　悠斗	10
	建築会と共に半世紀	染谷　清	11
研究室紹介	建築プロジェクト研究室	岡野　道子	11
	建築構造研究室	岸田　慎司	12
学科報告	2022 年度の学科の状況と学生の活躍	秋元　孝之	12
	大学院建築学専攻の紹介	前田　英寿	14
2023 年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者			15
イベント写真			16
会計報告　2022 年度会計報告　2023 年度予算案			16
2023 年役員名簿			16
編集後記			16

会長挨拶　卒業生の拠り所となる卒業生の会『芝浦建築会』

切刀　強（くぬぎ つよし）
1976年工学部建築学科卒
1978年大学院工学研究科建設工学専攻修了

昨年会報を発行してから早１年、暑い夏も過ぎ師走を迎える中、皆様ご健勝のこととお喜び申し上げます。建築学部建築学科は2017年に工学部建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科建築・空間デザイン領域の２学科１領域を統合・再編し、３コースある建築学部建築学科が誕生しました。この統合・再編を受け、工学部建築学科と建築工学科の卒業生の会建築会と建友会は解散し、この２つの卒業生の会の活動を継承する建築学部建築学科の卒業生の会『芝浦建築会』は2021年12月に発足致しました。2024年には工学部建築学科は創設されて70年、建築工学科は同じく58年が経過することになります。この２つの卒業生の会の活動を継承する建築学部建築学科は今年３月で第３回目の卒業生を送り出し、『芝浦建築会』は現在約15,000名の会員数となり、これから毎年大学院生も含め約300名の会員が増えることになります。

『芝浦建築会』は、この12月に会報第２号を発行することができました。昨年12月に住所が判明している約10,000名の会員の皆様に会報第１号を発送し、会報に同封した会報郵送の要否と総会出席可否のアンケートでは、約400名から返信がありました。このアンケートに基づき、今年度は会報必要者と会費納入者に会報２号を発送しましたが、この仕分けにつきましては是非の議論があり、次回の会報送付対象者については会の在り方も含め再考が必要であると考えております。

『芝浦建築会』の昨年度の活動を振り返りますと、昨年９月14日に校友会に支部設立承認願いを発起人名簿と共に提出し、同年12月５日の校友会常任委員会にて校友会『芝浦建築会』支部として設立が認められました。本年６月10日の校友会全国総会においては、『芝浦建築会』は新支部として挨拶させて頂き、校友会だよりの支部活動報告にも紹介記事が掲載されました。

また、本年の６月24日豊洲キャンパスにて『芝浦建築会』第２回定期総会と校友会支部設立総会を兼ねた総会を開催し、対面出席者50名とリモート出席者８名、合わせて58名の会員に出席して頂きました。

総会では司会者の鈴木泉事務局長より1954年の工学部建築学科創設から建築学部建築学科までの経緯説明があり、私からは2021年12月に設立された『芝浦建築会』は解散した２つの卒業生の会、建築会と建友会の残余金を引継ぎ、この剰余金によって昨年会報第１号を発行ができたことの報告をさせて頂きました。

総会集合写真　23年6月24日

議事は議長に百瀬副会長、議事録記録人に川口副会長、議事録署名人に浅見幹事と百瀬副会長を選任し、１号議案から５号議案まで皆様の協力により全議案を議決することができました。

総会の来賓として大学法人を代表して秋元建築学部長に、校友会の代表として加藤会長に挨拶して頂き、その後ロビーにて集合写真の撮影を行ないました。記念講演会では建築学科教授山代先生による「木でつくる懐かしい未来中大規模木造の潮流」をテーマに講演して頂き、その後交流棟の２階カフェテリアに移動し懇親会が催されました。約40名の参加者が昔話や講演内容、『芝浦建築会』のことなどの話に花を咲かせ、楽しい交流時間を過ごすことができました。第３回総会は来年６月22日（土）に開催する予定です。多くの会員の方に参加して頂き、総会や講演、懇親会での交流などを通し、参加して良かった思える計画を考えて行きたいと思っています。

また、昨年11月29日の建築学科３年生を対象にした就職セミナーにおいては、各分野で活躍している本大学卒業生がパネラーとなりそれぞれの仕事の内容を紹介した後、私からは建築学部建築学科を卒業することにより卒業生の会『芝浦建築会』には入会でき、先輩や後輩との交流の機会を得ることができるなどの話を交え挨拶をさせて頂きました。

デザインチャンピオンシップでは、坂茂先生からの出題『地政学の建築』への応募作品に対する審査会が12月３日にあり、坂先生の審査講評の後、私からは全体講評として参加し、考えることが大切であるとの応募者への応援メッセージを送り、懇親会では『芝浦建築会』の紹介や会としてデザインチャンピオンシップを支援していますとの挨拶をさせて頂きました。さらに、建築学部建築学科及び大学院理工学研科建築学専攻の学位記・表彰状授与式が2023年３月22日に豊洲の大講義室にて開催され、各種表彰及び学位記授与の後、卒業生の会を代表して、希望を捨てることなく追い続けましょうという卒業生に対しての祝辞と『芝浦建築会』への入会と会費納入をお願い致しました。

1968年～2003年芝浦工業大学工学部建築工学科にて教鞭をとられた建築家藤井博己名誉教授が今月11月10日に90才で逝去されたとの訃報が届きました。ご冥福をお祈りいたします。

建築学部建築学科の卒業生の会『芝浦建築会』は、在学生に対しては学生の励みになるであろうと思える支援活動を行い、卒業生に対しては先輩後輩の交流交友活動を通し、芝浦工業大学への拠り所となる活動を目指して行きたいと思っています。これからも会員の皆さんの温かいご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

【芝浦建築会会長】

校友会寄稿

「芝浦建築会　会報（第2号）」に寄せて

加藤　善次郎（かとう ぜんじろう）
1980年工学部機械工学科卒

芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。
2020年正月明けの新型コロナウイルス感染報道から３年以上の月日が過ぎ、社会生活もだいぶ平常を取り戻そうとしていますが、最近では感染者の増加も報道されています。くれぐれもご自愛頂きますよう切に願います。

さて、私は2020年の７月、鈴見前校友会長（現理事長）の後を引き継ぐ形で、校友会長に就任し、３年間校友会長職を務めさせて頂きました。今年７月任期満了に伴い常任幹事会の役員改選選挙において再度会長をしろとの判断を頂き、改めて会長職を務めさせて頂くこととなりました。皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。
校友会は、建築学部創設以来、旧建築学科、旧建築工学科の両卒業生を中心とした卒業生の会の設立を切に願っておりました。功刀会長はじめ多くの先輩方のご努力により2021年12月に「芝浦建築会」を設立、昨年校友会支部として船出を切って頂きました。改めて御礼を申し上げます。

校友会として芝浦建築会にお願い事がございます。校友会の支部は、地域支部、海外支部、職域支部及び同好支部の96支部から成り立っていますが、建設会社を中心とした職域支部の多くが支部活動を行っておらず、いわゆる休眠支部化しております。校友会としては2027年大学の創立100周年に向けて支部の活性化を目的に総点検を行う予定です。休眠支部の統廃合、廃止も検討する予定です。それら建設会社を中心とした休眠職域支部に在籍しています会員の吸収を是非行って頂き、校友の拠り所となって頂きたいと願っています。具体的なことはまだ何も決まっておりませんが、是非ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。
そして来年の全国総会、懇親会ですが、6月8日（土）に今年と同じ、ゆりかもめ台場駅直結のグランドニッコー東京台場で開催されることが決定しました。事前に皆様にご報告させて頂きますとともに、再会を楽しみにしております。また、2027年創立100周年の全国総会、懇親会は、1,000人規模の会を目指し、皆様方には絶大なるご支援、ご協力をお願いする次第です。
最後に芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様のご繁栄、ご健勝を心からご祈念申し上げます。

【芝浦工業大学校友会会長】

卒業生の輪

学部時代から現在まで

水谷　晃啓（みずたに あきひろ）
2007年工学部建築工学科卒
2009年大学院工学研究科建設工学専攻修了
2013年大学院理工学研究科博士課程修了

私は芝浦工業大学に学部・修士・博士課程と合計で９年間学生として在籍しました。学部は建築工学科の丸山洋志研究室に所属し、修士からは八束はじめ研究室に所属しました。修士を卒業後の１年間は大学から離れており、隈研吾建築都市設計事務所などの事務所で建築設計を行っておりました。一旦は社会に出たものの、大学での教育研究活動への興味から再び大学に戻る決心をし、八束先生が六本木の森美術館で行った「メタボリズム展」の手伝いなどをしながら、博士論文の執筆を行っておりました。
博士課程在籍時は週４日建築設計事務所で働き、週３日大学に行くような生活をしておりました。その間、在籍させてもらっていた設計事務所は、芝浦工業大学建築学科を卒業し、竹中工務店に勤務したのちに独立した齋藤修一さんの事務所でした。博士の学位を取得した後は、ポスドクとして１年半芝浦工業大学にお世話になり、その後、現在所属する豊橋技術科学大学に赴任しました。豊橋技術科学大学に異動した年から今年で９年目となりますが、その間は非常勤講師として母校でも教鞭をとらせて頂いております。学部時代から現在に至るまで、芝浦工業大学ならびに卒業生との縁に支えられていると感じております。
現在は学部４人、修士10名が所属する研究室を率いており、これまでに延べ40名ほどの芝浦工業大学で学んだことを活かしながら学生を社会に送り出してきました。研究室ではデジタルファブリケーションなどコンピュータを使った研究などに加え、建築設計教育を行っております。研究の方では、芝浦工業大学に提出した博士論文のテーマからの発展研究を含む研究活動の成果が、建築学会等の論文集に掲載されてきました。また建築設計の方では、学生と一緒に取り組んだ「剛な天井」という古い農家住宅の改修プロジェクトにおいて「SDレビュー 2022槇賞」を受賞することができました。今後も芝浦工業大学で培った知識や経験を活かして活動していきたいと思います。

【豊橋技術科学大学大学院工学研究科 准教授】

わたしの現在地／知

若林　拓哉（わかばやし たくや）
2014年工学部建築工学科卒
2016年大学院理工学研究科建設工学専攻修了

いま建築に没頭できているのは偶然であり運命的でした。
建築家の名前もろくに知らずに入った建築工学科。そんな中、学年担任だった八束はじめ先生の授業で近代初期～現代までの建築家の作品を網羅的にインプットしたことで、建築の世界の広大さを目の当たりにします。そして数々の海外建築家たちの発想・形態の自由さに憧れ、次第に建築へのめり込むように。学部では赤堀忍研究室に所属、修士は八束先生の後任で新設された西沢大良研究室へ。そこで哲学・経済学・文化人類学etc.といった様々な背景から俯瞰して都市／建築の在り方に向き合い、研究テーマであった港湾都市の分析に熱中したことがいまもわたしの思考のベースになっています。

欅の音terrace

大学院修了後は、“いまの建築界はDown to Earthすぎる”という八束先生からの投げかけと、西沢研で培った理論を実現するため、何処へも所属せず抗ってサバイブする方がベターだと考えフリーランスとして活動開始。とはいえ建築士の資格も必要なので、そんなマインドでも受け入れてくれた「つばめ舎建築設計」とパートナーとなり、実務を学びつつアートプロジェクトや論稿執筆、展示キュレーション等に個人で取り組んでいました。

ARUNÖ

2022年１月に法人化し、現在は設計スタッフ・メンバーが自分を含め４名、それ以外にバックオフィス・不動産コンサル・リサー

チャー・グラフィックデザイナー・広報のメンバーが5名という多角的な構成で「なぜ・何を・どのように建てるのか？それは本当に必要なのか？」といった建築の社会的価値を再考しながら仕事に向き合っています。そのために、契機となる2018年に手がけた職住一体型アパートの改修プロジェクト「欅の音terrace」（つばめ舎建築設計と協働）から、設計だけでなく企画から不動産・運営まで手掛けることに意識的に取り組んでいます。現在も自社でマスターリースしている、元・郵便局を地域の文化複合拠点へ改修したプロジェクト「ARUNŌ -Yokohama Shinohara-」やSDレビュー2022に入選した「新横浜食料品センター」で企画～運営まで包括的にデザインしています。

SDレビュー2022新横浜食料品センター

建築の可能性と深さを知り、いま道が開かれているのは、芝浦工業大学で得た数々の経験の賜物だと感じています。

【株式会社ウミネコアーキ 代表取締役】

多様性を育む、場と教育 ～銭湯的空間を目指して～

加藤　優一（かとう ゆういち）
2006年工学部建築学科卒

私は、デザインとマネジメントの両立をテーマに、建築の企画・設計・運営・研究の一連のプロセスに携わっています。銭湯を起点にしたシェアスペースの運営や、地域資源を活かした空き家再生など、事業を伴う場づくりの連続によって、実践的なまちづくりを目指しています。

旧富士小学校の再生（基本構想・設計）

この働き方に至ったベースには、本学での経験があります。最も記憶に残っているのが、私が所属していた堀越研究室が主催する「room」という勉強会です。毎回多様なゲストが集まり、自由に議論が交わされていました。「こんな時間を包み込みこむ空間をつくってみたい」。建築を人と時間の関係性から考えるようになったのは、この頃からです。

小杉湯となり（企画・計画・運営）

もう一つ、印象的なエピソードがあります。ある日の講評会で、私の設計課題に賛否両論があったのですが、案を推してくれた先生とそうでない先生が、真剣に議論してくださったのです。そこには、学生と教員の垣根はなく、多様な考えが交差していました。あの日、背中を押してくれた先生が居たことで今の自分がいます。今の芝浦工業大学は、建築学部が誕生したことで、さらに幅広い考え方に触れられることが羨ましい限りです。

銭湯から広げるまちづくり
（学芸出版社）

万場町のくらし（設計・施工・運営）

以上のような経験を踏まえて、現在は大学の教員として、学生の価値観を広げられるような教育を目指しながら、実務においても多様性を包み込む場づくりに取り組んでいます。今注目しているは「銭湯」です。銭湯では自分に向き合うこともできるし、言葉を交わさなくても人とのつながりを感じられる。そんな場所が現代には求められている気がします。ちょうど今月、銭湯の活動をまとめた本を出版することになったのですが、学生時代に考えたことも書いているので、ご興味がありましたぜひ手にとって頂けますと幸いです。

【株）銭湯ぐらし 代表取締役役 （一社）最上のくらし舎 共同代表理事
OpenA+公共R不動産パートナー　東北芸術工科大学 専任講師】

まちの生態系の 編み目としての建築

冨永　美保（とみなが みほ）
2011年工学部建築工学科卒

私は、横浜に小さな設計事務所をかまえて、住宅から公共建築、パブリックスペースまで、全国津々浦々、いろいろな建築の設計をしています。どのプロジェクトでも大切にしているのは、それぞれの関係性の編み目のなかで建築を考えることです。

CASACO（2016完成）

プロジェクトが始まるとき、必ずその土地に通い、その土地の方の話を聞いて、設計に取り組みます。まちの歴史や、生活の小話など、あらゆる物語とつながり、まちの生態系に編み込まれて、長い時間軸の中で愛され続ける建築をつくりたいと思いながら、設計を続けています。

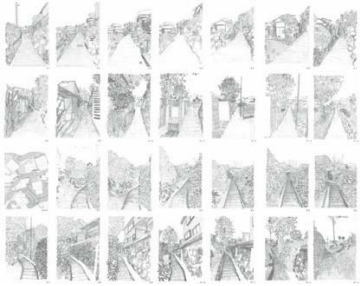
新垂水図書館（2025/03 完成予定）

芝浦工業大学では赤堀忍さんの研究室で、課題のための徹夜を重ねる日々を送っていました。寝ても覚めても、ほぼ大学にいたように思います。設計課題に没頭できる時間は、本当に本当に楽しかった！

真鶴出版2号店（2019完成）

同期も後輩も先輩も、議論の渦に巻き込み、巻き込まれて、コンペに取り組んだり、グループで仮設建築を設計施工したりしていました。白熱して、時に喧嘩したりもする時間を経て、建築を考える上での思想は人それぞれに多様で、それらが相反するものであったとしても、どれも尊いということを学びました。

赤堀先生は、「こうしなければいけない」を絶対に言わない人でした。私は先生のそんなところが、とても好きでした。先生と話していると、建築の力で、どこまでも触手を広げていけるような感覚がありました。抽象ではなく個別具体の話を聞き、ともに考え、領域やスケールを横断しながら、建築には何ができるのかを探り続けることの大切さを教えてもらいました。



真鶴出版2号店　まちあるきスケッチ

今も、スタッフやお施主さん、まちの方たちと、これからその場所での物語にあたらしく参加する建築について話すとき、建築単体のことを超えて、大きなフィールドの中のひとつの粒として、どんな存在に育てていくのが良いのかの議論に発展することがあります。

そんなときにふと、赤堀先生と対話や研究室での出来事を思い出します。その時間の続きとして、今も私は建築を考えているように思います。

【株式会社トミトアーキテクチャ代表】

“建築とテクノロジー” なキャリア

中島　貴春（なかじま たかはる）
2011年工学部建築工学科卒
2013年大学院理工学研究科建設工学専攻修了

学私が学生だった頃はiPhoneやiPadが発売し、ガジェット好きだった私にとってとてもワクワクする時代でした。それから10年が経過し、今ではPhotoruction（フォトラクション）という建設業向けのクラウドアプリを開発する会社の代表として働いています。その前は竹中工務店のIT部門にいましたし、大学ではBIMに関する研究をしていたと言うことで、キャリアのほぼすべてを建設テック（建設×テクノロジー）にささげているような人間です。

もともと建築よりもITが好きな所があったためか、建築学生っぽい思い出はほとんどありません。模型造りに拘り没頭したことも、仲間と一緒に建築を見に行くことも、卒業設計で徹夜することも、どれもこれも経験していません（笑）。ただ、小学生の頃からインターネットの上で何かものづくりをすることが好きだったので、図面の代わりにコードを書いてアプリを開発していました。別にIT企業に就職したかったわけでもなく、面白くて趣味みたいなものだったのですが大学４年次に転機が訪れます。

私の恩師である木本先生は、当時では珍しくBIMをテーマに研究をしていました。そこでプログラミングスキルが必要になり、初めて自ら建築に取り組んでみたいと思った記憶があります。BIMを積極的に触りたがる学生も少なく重宝したのか、研究室に入ってから木本先生はゼネコンや業界団体とのBIMに関する調査や研究をはじめとした、様々なことを任せてくれました。その際に、インターネットの世界では当たり前になっていることが、建設業界では実現できていないことに気がつき、仕事にしたら面白いなと思いました。木本先生は在学中に亡くなってしまい、私の知識が多少は追いついた今、お酒を飲みながらBIMの未来について議論できないのが残念でなりません。

そうした出会いがなければ、今は何をしているかわからないと思うと、先を考えて技術を身につけるという事は非常に難しいなと思います。胸を張って言うことではありませんが、私は学生時代に設計者になろう、や施工管理で所長になろう、と言ったキャリアに関しては何も考えていませんでした。自分が正しいと思うこと、価値があると思うこと、そして楽しいと思うことに取り組んでいました。芝浦工大には何となくそれを良しとする土壌があるように思えます。当時は知りもしなかった「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」と言った建学の精神が反映されている校風だなと今だからこそ思えます。世の中の建築学生に設計でも施工でもない、全然違う選択肢もあるよということを示せるよう、これからも建設テックの仕事を楽しみながら頑張っていきたいと思います。

【株式会社フォトラクション表取締役CEO】

建築を引退して思う事

塚の目　栄寿（つかのめ よしひさ）
1980年工学部建築学科卒
1982年大学院工学研究科建設工学専攻終了

８才で建築という芸術に憧れをいだいてから50年近い年月が経ってしまった。その50年の間に本当に芸術としての建築と携わってきたのは一体何年位あっただろうか。芝浦工業大学の建築学科に入学し、４年後に卒業し、その後大学院の建設工学科に入学し卒業するまでの６年間だけのような気がする。その後、建築基準法の何たるかや、建築の構造・設備・電気そして建設の現場を何も知らずに設計事務所に入所し、大学・大学院での芸術としての建築から社会性としての建築に目を向けざるを得ない日々を過ごしたように思う。もちろん、その中でも企画・設計では建築空間を構築したり、平面・立面・断面をどう構成して魅力ある建築を創ろうという努力はしてきたつもりだった。

30才前に設計事務所を立ち上げ、独立してからは建築の設計よりも事務所の経営の方に四苦八苦してしまっていた。仕事がなければ会社がつぶれてしまう。仕事をどう繋いでいくか。建築の設計を考えるより会社の経営のことを考える時間が多くなってしまった。

40才代後半には、どうにか設計事務所として社会から認められ、多少余裕が生まれて建築の芸術性を考えながら設計が出来るようになりつつあった。しかし、世の中は甘くなく、今度は建築と直接関係のない世界経済からのリーマンショックの襲撃を受けた。仕事は完全に底をつき、建築の芸術性どころか会社の解散をも視野にいれなければならなくなった。

だが運良くあるディベロッパーからの仕事が舞い込み、自転車操業をしながらどうにか首をつないで、少しづつ息を吹き返していった。

50才半ばになって設計の仕事が数多く依頼されるようになったが、設計事務所を設立した時から自分の目の届く範囲で設計をしようとの思いから少人数での会社構成で仕事をこなしてきた。仕事量と体力との闘いとなり、それについていけず、60才を過ぎたあたりで限界を感じ、若い世代に仕事を任せ設計の仕事を引退した。約50年間、建築に携わってきたが、自分の実力的にはこんなものかと思いながら芸術性のある建築をもう少し作りたかったように思う。

先日、大学・大学院の同級生で27才で夭折した友人のお墓参りをしに長崎県の島原市に行ってきた。彼とは在学中、就職をしてからも酒を飲みながら建築論をぶつけあった仲間だった。

彼の建築に対する芸術観は素晴らしかった。端的に言って設計が上手だった。何をやっても彼にはかなわなかった。そのセンスがとても羨ましかった。もし、彼が生きていたら、芝浦工業大学どころか日本を代表する建築家のひとりとなっていたに違いない。

「山下、もう一度、あなたの設計した建築が観たかった。」

建築を引退したいま、遅ればせながらせながら日本の近現代史、日本・世界の社会構造を勉強している。これらのことをもっと早くに知識として吸収していれば、もっと違う上手な設計が出来ていたかもしれない（笑）。

設計者として、経営者として、今後の展望

下田　恭子（しもだ きょうこ）
1997年工学部建築工学科卒

平成９年に建築工学科を卒業し、その後都内の建築設計事務所に５年勤務の後、独立して自身の事務所を構えました。その間に同学科の同級生である夫と結婚し、現在では夫の郷里である群馬県伊勢崎市に移り住み、義父が創立した株式会社下田設計の常務取締役として、代表に就任した夫とともに、日々設計活動を行っています。

下田設計は創立42年を迎えます。業務範囲は地元伊勢崎市を中心に、県内はもちろん関東近郊におよび、2007年からは東京事務所を置き、都内でも多くの仕事をしています。手がけている物件は、個人住宅から公共建築まで幅広く多種にわたり、個人から企業、社会福祉法人、行政機関とクライアントは多彩です。

中でも医療や福祉関係施設の設計には、事務所開設当初から力を入れてきており、クリニックから地元伊勢崎市の医師会病院をはじめ、デイサービスや高齢者向け集合住宅など多くの物件を手掛けています。また、「伊勢崎市景観まちづくり賞」や「ぐんまの家設計・建築コンクール」などの受賞や各種メディア掲載もあり、デザインにも一定の評価をいただいてます。

今後の方向性としてはSDGsを実行しながら、「既存ストックの活用」として、建築の再生や再利用に積極的に取り組んでいきたいです。また、設計者という立場から、より俯瞰的にものを見る「建築家、プロデューサー」としての視点を持ちたいと考えています。従来の「設計監理」という業務だけでなく、企画から運営まで、プロジェクトを一貫してプロデュースしていくような立場となり、建築というハードだけでなく、そこで行われるソフトまで提案、係わりを持つような活動をしていきたいです。一級建築士という国家資格と、培ってきた経験を生かしながら、まちづくりや地域活性化の一役を担えるように、活動の場を広げていきたいと思います。

今後の弊社の課題としては、「若手の育成」ということがあげられます。まずは建築設計という仕事により興味を持ってもらい、その魅力を理解し、自分たちの仕事は社会的にも誇れるものであることを知ってもらいたいです。そのうえでノウハウをしっかりと伝え、資格も取りたくなるような仕事環境を整えてきたいと考えています。いつかは独立して、「下田設計出身」ということが担保となるような人材を育てたいです。

やりたいことは山ほどありますが、確実にひとつずつ実行し、下田設計をよりよい会社にしていきたいと思います。

【株式会社下田設計】

独立して5年目に振り返って

徳田　直之（とくだ なおゆき）
2009年工学部建築学科卒
2011年大学院理工学研究科建設工学専攻修了

「この中で建築家になれるのは１人くらいだ。」

当時大学に入学して間もない授業の中で、唐突に先生にそんなことを言われびっくりした覚えがあります。大宮の自然豊かな中で平和ボケしていた矢先に言われたので、余計に動揺し悔しいような気持ちになって、だったらその１人になってやるゾ、とまんまと心の中で静かに闘志を燃やしていました。今思えば、本当に頑張らないと厳しい世界だぞ！と喝を入れてくれた愛に溢れた言葉でした。

佐倉の住宅（2018年竣工）

大学４年生になった頃には堀越英嗣研究室に在籍していました。堀越先生は設計課題のときによく「誰のための建築なのか？」という問いを投げかけていました。学生の頃はもちろん、社会に出た今もなお、この言葉に向き合うべきだと思うことがよくあります。設計の仕事は発注者と受注者の関係以上に、できた建築によって社会や風景を形作る資産になる。そのときに” 誰のための？” はもっと広がっていくし、自分の意識していない遠い未来や人にも影響を与えていく、楽しさもあるけど怖さもすごくある、とても責任ある仕事だと今になって肌で感じています。

卒業後、久米設計やアトリエ系事務所で経験を積み、自身の設計事務所を構えてから今年で５年が経ちました。設計の仕事は住宅から始まり、別荘、美容室、アパート、工場、オフィス、バー、レストラン、サウナ、生活介護事業所、グループホーム、ときに

はキャバクラやガールズバーも受けることもあり、来るもの拒まずやっていたら良くも悪くも色々なことをしていました。千葉県我孫子市に構える事務所の窓からは、河童伝説がある手賀沼や、白鳥がよく現れる公園が見え、周りに良い環境があるにも関わらず、四季の変化を意識する間もない慌ただしい日々が過ぎてます。学生の頃に想像していた設計事務所像とは違うけど、スタッフは楽しそうにしているので、これもこれでありかなと思いつつ、これからは少しずつ中規模以上の建物にもチャレンジしていきたいと思っています。

四街道の住宅（2021年竣工）

市原の看多機（2023年竣工予定）

最近では、母校の非常勤講師としてCAD・CGを教えることや、芝浦建築会との交流を通して、20代現役生～60代以上のOBOGの芝浦の方々と関わっています。学生にどんなアドバイスができるのかと考え、大先輩にどんな質問ができるか考え、自分はどこに立っているのか、立つべきなのかとまた振り返ってみたりしています。仮に、学生に設計事務所ってどうなんですか？と聞かれたときには、厳しいことも楽しいことも包み隠さず話して、それこそ、愛を持って答えたいと思います。

【トクダクション一級建築士事務所代表】

芝浦建築会の未来の一員として

井筒　悠斗（いづつ ゆうと）
2023年建築学部建築学科SA卒

2019年、芝浦工業大学に建築の右も左も分からずに入学した私は、ある日のプレゼンで原田真宏先生に「なぜこの形にしたのか」と問われた時、「単にかっこいいと思ったから」と答えました。原田先生が仰った「建築では、そのかっこよさを言葉にするのがプレゼンだ」という言葉に、ハッとしたのを今でも鮮明に覚えています。それから4年間建築を学び、まだまだではありますが、建築が芸術でありながら社会と密接に接続し、合理性が求められることを学びました。意匠設計者でありながら、一人の技術者や哲学者として、自分の思いをロジックに社会に具現化できる唯一無二の職業であることを理解し、その意味で建築が大好きになりました。4年生からは原田先生の研究室でお世話になり、建築のあるべき姿とは何か、建築によって何ができるか、答えにはまだまだ辿り着いていませんが、考える機会を得たことは、間違いなく今後の人生で重要になると確信しています。この大学で建築を学び、共に戦う仲間に出会えたことに感謝しています。

また、あらゆる方面から価値を提供することを目標に、今年Webデザイナーとして開業しました。そのご縁もあり建築会に招いていただいたのですが、建築というある種静的なものとは反対に、世界を駆け巡るインターネットで発信することは現代では必須になっています。将来も建築だけに凝り固まった人間ではなく、トータルバリューをもった人としての深みを持ち続けるための挑戦に邁進していきたいと考えています。

今年度から役員を務めさせていただくに当たって、2022年のデザインチャンピオンシップ出場後の懇親会で、切刀会長とお話ししたのを思い出します。会長から直々に芝浦建築会の設立経緯や想いを伺い、深い共感を覚えました。翌年に卒業し、晴れて役員として迎え入れられたのは大変光栄です。主にホームページのリニューアル・運用の役割を担うお誘いでしたが、第2回定期総会では、若い力を取り入れることの重要性に気づきました。会員の皆様からも若い人に積極的に活動に参加して欲しいという声を直接お聞きし、芝浦建築会の未来を共に創造する一員であることを改めて実感しました。私のように、皆さんもこの大学で多くのことを学び、建築だけではない大切なことを学ばれたと思います。そんな想いの集う場所として、将来に残る芝浦建築会をつくり上げましょう。

【東京大学大学院 / Atelier IZUTSU代表】

建築会と共に半世紀

染谷　清（そめや きよし）
1969年工学部建築学科卒

1984年第一回建築会幹事会が行われ、11月建築学科30周年記念パーティー開催、同年名簿発行、翌年建築会創刊号を発行。1990年第三回総会が開催され、1967年初代岩井隆会長から1983年卒二代目建築学科一回生の加藤國雄会長、そして佐藤勝利様、石井敏夫様、鈴木泉様、最後の会長1971年卒六代目枝広英俊名誉教授に引き継がれた。

建築会とは別に1991年小柳津先生が教授に就任され翌年建築フォーラム「円座」が誕生、2005年迄年二回開催（世話人会会長辻垣先輩）、又1996年建築学科計画系OB会「田町の会」発足、現役教授が還暦を迎えた年に開催された。

建築会では幹事として建友会との合同名簿発行に際し、バブル後の企業広告掲載が激減し予算を削るため名簿欄一人二行を一行にしてページ数を減らした。名簿作成の際大変お世話になった2年先輩の阿部泰資さんにはこの場をお借りし感謝申し上げます。2015年から会計担当となり、年々減り続ける収入に苦慮し2016年から会費以外に寄付を募り2021年には寄付が47万円程になった。また2017年発行の建築学科60周年（2016年）記念誌に出資した100万円は一部3,500円で販売しほぼ回収。同年建築学部が開設され2021年旧建築会、旧建友会との合同同総会「芝浦建築会」の誕生。初代会長には私も推薦した1976年卒切刀 強氏が選出された。私は会計と名簿担当、芝浦建築会第一号会報誌を一人でも多くの卒業生に送りたいとの思いで、昨年秋大学所有の名簿を大学から頂き、建築会、建友会所有の名簿との突合せで修正を行い、更に大学院、デザイン工学科卒の名簿を含め四カ月半程かけて整理、会員約15,000人のうち住所確定者約10,000人に会報を発行した。

今年喜寿を迎え、建築会の幹事として半世紀にわたり会に携わってきた中で、2019年帝国ホテルにて開催された建築学部開設記念式典に参加させていただいたこと、特に今は亡き石川洋美先生、大先輩五十嵐前理事長とご一緒できたことが幸甚の至りです。更に、卒業時からずっとお付き合いさせて頂いた1964年卒芝浦建築会顧問の田口継道先輩、ご指導下さった諸兄には感謝しています。

又、建築学部長秋元孝之教授、UAコース代表志手一哉教授、APコース山代悟教授には会議に出席して頂き、本校卒業のSAコース代表郷田修身教授にはご多忙中にもかかわらず、一番負担のかかる作業をお願いしています。今後、芝浦建築会発展の為、本校出身の先生方、卒業生には積極的に会に参加してほしいと願う今日この頃です。

【一級建築士事務所ＫＡＩプランナー】

研究室紹介

プロジェクトデザイン研究のご紹介

岡野　道子（おかの みちこ）
建築学科准教授

建築プロジェクト研究室は2017年の建築学部再編と共にスタートしました。当初から、災害復興の支援や、二地域居住などの新たな暮らし方を考える事で、これからの時代における生き方や、建築の社会との関わりについて模索してきました。

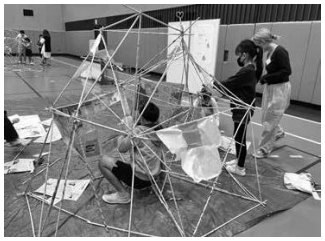
チャリんこテラス

被災地の仮設団地や集会所では、現地へ赴き、現場で得られる材料を使って、制作工程を考え、必要とされるものをデザインし、作るという流れで、家具や縁側、テーブル、ベンチなどを制作してきました。また、日常的に自分達が過ごしている都市においても、課題を見つけ出す共に建築的な仕掛けで人々の集える場を生み出す活動を行っています。昨年は豊洲のぐるり公園を敷地とし、パレットを使って自転車置場と休憩所を兼ねた居場所「チャリんこテラス」をつくりました。実際に利用してくれた人にインタビューを行い、更に進化させ、今年も単管パイプによるフレームと布を用いたくつろぎの場「どてんところり」を制作中です。

どてんところり

また、小学生を対象としたワークショップもこれまでに何度か開催しました。ワークショップのノウハウも蓄積され、今年は日本建築学会主催のワークショップコンペに学生自ら主体的に参加

し、最優秀賞を受賞しました。「みんなのアジト大作戦 !!」と名付けられたワークショップは、豊洲の新校舎体育館にて開催され、多くの小学生が参加しました。新聞紙を細く丸めて作った棒でフレームを組み上げ、小屋の様な住処をこども達と制作しました。結果的に、これまで見たことのない材料と形状の組み合わせで、学生ならではのオリジナリティある提案となりました。



みんなのアジト大作戦

研究室では学生が運営するプロジェクトが幾つも同時に動いています。自らプロジェクトを生み出し実行する事で生じる社会との繋がりが、彼等の自信と責任感につながっているようです。

対話を通して考えが変化し、提案が更に発展していく事の面白さは、設計のプロセスにおいても同じです。学生達にはまだ見ぬこれからの時代を予感させるプロジェクトをつくり出すと共に、この先のまだ見ぬ都市と建築を構想して貰いたいと思います。

2023年のいま

岸田　慎司（きしだ しんじ）
1994年工学部建築学科卒　建築学科教授

2005年から母校に着任でき，18年が過ぎました。二回目の登場となりますがよろしくお願いします。簡単に自己紹介しますと，構造の担当をしており，専門は鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートの耐震に関する研究をしております。柱梁接合部に関することは着任当初から継続して実施しておりますが，最近は基礎構造の杭やパイルキャップに関する設計法に興味があり実験を中心に進めています。

さて，2005年着任時は田町にて授業を実施しましたが，2006年には豊洲に引越となり，2022年の夏に豊洲校舎の同一敷地内の本部棟に引越たわけですが，以前に比べると研究室が格段に広くなりました。さらに，開放的にもなっています。是非，卒業生の皆様，本部棟の校舎に遊びに来てください。

18年も教員をしておりますと色々な仕事が回ってきます。今回は就職担当についてお話しします。ここ最近は就活生の売り手市場とも言われており，各企業は優秀な学生さんを確保しようと苦労されております。私の所にも各企業から面談の要望が来ており，時間の許す限りお会いしています。担当者の中にはやはり卒業生の方多く，今の仕事内容について目を輝かせて説明して下さる様子をとてもうれしく思います。芝浦の卒業生が活躍しているおかげで就職率が良いのだということを改めて感謝しております。是非，ますますのお活躍を祈念しております。

最後に私が研究以外で興味をもって実施していることをお話しします。3年生の後期にプロジェクトゼミという科目があります。ここで，作った学生の作品を紹介します。どれも力作です。ちなみにすべて鉄筋コンクリートで作っています。椅子やモニュメントや棚と多種多様なものを作りました。どうぞご覧ください。ここに掲載していないもののも数多くあります。私の退職時には展示・即売会を実施したいと思っています。（購入したいとの要望がありましたら連絡ください，相談にのります。）

椅子（X chair）

モニュメント（らせん）

棚（あみだな）

椅子（Floating chair）

棚（はちのこ）

※（　）内は作品名なお，すべて研究室内にて展示しております。

学科報告

2022年度の学科の近況と学生の活躍

秋元　孝之（あきもと たかし）
建築学部長　建築学科教授

2023年3月、建築学部建築学科の3代目の卒業生232名と理工学研究科建築学専攻の大学院生127名が、巣立っていきました。卒業式は、2023年3月22日に東京国際フォーラムで実施され、建築学科の学部卒業生と大学院修了生はその後、豊洲キャンパスの大講義室に戻り、学位記授与式に参列しました。この式では、卒業研究、学業成績の優秀者の表彰も行いました。芝浦建築会の切刀強会長にもご出席頂き、祝辞を頂戴致しました。

2022年度の卒業生の学業成績優秀者は、以下の通りです。また、卒業研究優秀各賞、修士論文優秀各賞は表1の通りです。

学業成績最優秀賞・総代　河本一樹
学業成績優秀賞・有元賞　大槻紘子　橋爪希　増田このみ
学業成績優秀賞賞名　山田楽々　岡田尚子　竹内魁人
山本陽介　加藤優作　伊藤智基
清水葵衣　松田凌汰

学部生、大学院生とも学内だけでなく学外での活躍もめざましいものがあります。一部となりますが、表2に掲載し、学科の近況報告と致します。

建築会からはいくつかの行事でご後援頂きました。

芝浦の建築系学生向けの設計コンペであるデザインチャンピオンシップでは、世界的な建築家坂茂先生を審査員にお迎えし、2022年12月3日に実施されました。コンペ終了後の懇親会は、坂先生が設計された本部棟1階のカフェで行われました。設計者ご本人の話を聴きながらの懇親会は充実したものとなりました。ご後援ありがとうございました。

また、2022年11月から12月にかけて行われた業界研究セミナーでは、総勢14名の卒業生に協力頂き、現役学生向けの講演を行って頂きました。様々な建築分野で活躍する卒業生から、自身の職種について紹介いただくのとともに、現役学生に向けてのメッセージを頂きました。こうした取り組みにより、現役学生と卒業生の会の交流が深まればと思います。

2023年の夏休みには、2019年に実施されて以来4年ぶりの海外建築研修が実施され、三十数名の学生がスペインで約2週間を過ごしてきました。最近では多くの学生がマスクを外し、コロナ禍を脱した雰囲気があります。芝浦建築会と現役学生が交流する機会も増えてくることと思います。今後ともご支援をよろしくお願い致します。

大学院建築学専攻の紹介

前田　英寿（まえだ ひでとし）
1991年工学部建築学科卒
大学院理工学研究科建築学専攻長
建築学科教授

私は建築学部開学の際、デザイン工学部デザイン工学科建築・空間デザイン領域から異動、UA（都市・建築デザイン）コースを担当しています。専門は都市デザインです。本稿では、建築学科のほとんどの教員が参加する大学院理工学研究科建築学専攻を紹介します。

建築学専攻は建築学部建築学科第一期卒業に合わせて2021年4月に開設しました。前身の建設工学専攻が工学部建築学科・建築工学科・土木工学科、システム理工学部環境システム学科、デザイン工学部デザイン工学科建築・空間デザイン領域の5学科合同だったのに対し、建築学専攻は建築学部建築学科とシステム理工学部環境システム学科が母体です。工学部土木工学科は単独で社会基盤学専攻を立ち上げました。

建築学専攻の入学者数は第一期2021年度145名、第二期2022年度155名、第三期2023年度171名と増え続け、学年定員240名の建築学科の6～7割の規模に相当します。入学者の多くが建築学科と環境システム学科からの内部進学ですが、他学科からの内部進学や他大学からの入学者もいます。修了時にはエンジアリング系分野に修士（工学）、計画・デザイン系分野に修士（建築学）が授与されます。

大学院の各専攻は大分類の「研究部門」と小分類の「研究指導」からなり、建築学専攻には建築計画、建築設計、建築史、環境工学、建築構造、生産工学、都市計画の7つの研究部門があります。各部門は1～5の研究指導に分かれ、たとえば環境工学研究部門には建築環境工学と都市環境工学の2つの研究指導があります。2023年9月時点で35名の教員がいずれかの研究部門及び研究指導に属し、各々が研究室を主宰しています。

カリキュラムは講義と演習の「授業科目」と、研究室単位のゼミ「特別演習」「特別実験」があります。所定の授業科目を履修し合格すれば、一級建築士資格の取得に必要な実務経験1年分に相当します。海外留学等も活発で、本学を休学する従来方式の他、交換留学、単位互換、協定校との合同演習「グローバルPBL」等、多くのメニューから学生が選びます。

以上が3年目にある大学院建築学専攻の概要です。学生には研究室で専門を究める一方、35名の教員が提供する多彩な授業を通して、専門を越えた知見も広げてほしいと考えています。

表 1　卒業研究・修士論文　優秀各賞

建築学部建築学科

卒業設計最優秀賞　三浦元秀記念賞

廣川 安優	鞭りと断絶 ―集落消滅における時間軸の設計―

卒業設計優秀賞

山田 奈々	都市をscope ―ふれる場所性― ※ AP コース卒業設計賞
内藤 泰成	ヨコナガヤ ―空き家活用による地域居住拠点創造による地方再生―
大橋 萌子	記憶のかけらを拾い集めて ―プラームスの小径に宿る水脈の浸潤―
河本 一樹	中心について ―天下普請の反転による対自空間の導出―
鈴木 真紀子	OVERWRAPPED CITY ―高層建築に絡みつく低層図書―
中村 安美香	土管とみちくさ ―都市インフラのプロコラージュ的身体論―
四 祐太朗	旧道分三 SL 再生所 ―修理研修技術の保存と継承のために―

卒業設計奨励賞

岩崎 航	渋谷コモンズタワー ―既存超高層ビルのコンバージョン―
關戸 麻魅	MARNI @ Tokyo。
岩田 理恵子	時間平面で描く ―空間軸と時間軸の転換による建築の再解釈―
佐倉 園実	首都高を編み直す ―都市・水・記憶のノードをつむぐ近代インフラの発掘的継承―
長谷川 奈菜	千住大橋を繋ぐ ―人・文化・食が流動した街道筋とその象徴であった大橋を人の思場所として取り戻し、都市風景として再興する。―
大津 洋	都市護岸木葬聖園 ―世俗からの非難―
茂穴 紀歩	測量地による記憶
安藤 奨太	森に優む ―斜面林と共生する住居集合―

卒業論文優秀賞

島田 実実	車いす利用者の住宅に学ぶ「住む家」を決める基準　※ AP コース卒業論文賞
野村 彩華	個人の光環境体験がABWにおける疲労及び照明の選好に与える影響
森 万佑子	台風被害に対する文化財建造物被害と墳内の樹木管理の相関に関する研究 ―東京都23区内の墳内に着目して―
高添 祥太朗	BIMと強化学習を用いたドローンナビゲーションに関する基礎的研究
松岡 佑磨	夏期における電力需要の負荷平準化に関する研究 ―住戸の消費電力量に基づいた電気料金型DR の検証―
藤井 雅文	離島漁村集落における「共同体」の変容に関する研究 ―告志集落の 14 年間の変化からの考察―
新垣 郁乃	透明パネルの視覚制御効果の評価方法に関する研究
町田 結菜	新型築に関する一人親方の実態に関する研究 ―愛知工業大学豊洲キャンパス本棟(新築工事)現場における安全管理システム登録データに基づく分析―
都野 弦太	圧縮木材パネルを利用したモーメント抵抗接合の構造挙動 ―曲げ実験による検討―
高橋 篠雅	水平力を受けるパイルキャップ(杭)を有したSC杭試接合部の破壊形状と曲げ耐力に関する研究 ―机理法深さの直しによる検討―

表 2　学生の学外での活躍（学年は2022年度在籍時）

論文など

渡邊 圭太郎	M1	2022 年度 日本建築学会大会（北海道）学術講演会 建築社会システム部門	若手優秀発表賞	「IFC の属性情報を用いた建築確認自動化の可能性に関する研究 ～ Dynamo による適合判定ツールを用いた実証実験～」
坂本 志郎	B4	2022 年度 日本建築学会大会（北海道）学術講演会 建築歴史・意匠部門	若手優秀発表賞	「都市公園に移築された文化財建造物の評価に関する研究 東京都内の 13 事例における、方位変更と周辺環境の相互作用に着目して」
土屋 裕輝	M2	2022 年度 日本建築学会大会（北海道）学術講演会 環境工学部門	若手優秀発表賞	空調用熱源システムの最適運転支援システムに関する研究 (第 2 報) 新型コロナ禍による熱・電力負荷変化期間における負荷予測手法の妥当性の検証
小澤 一貴	M1	2022 年度 日本建築学会大会（北海道）学術講演会 環境工学部門	若手優秀発表賞	地方都市における熱電一体供給事業をベースとした地域エネルギー事業に関する研究 (第 3 報) 駅前再開発地区における熱電一体型地域熱供給モデルの検討
船田 彩香	M2	2022 年度 日本建築学会大会（北海道）学術講演会 環境工学部門	若手優秀発表賞	地方都市における熱併一体供給事業をベースとした地域エネルギー事業に関する研究 (第 4 報) 熱電一体型地域熱供給事業と地域新電力事業の連携効果の検討
高添 祥太朗	B4	建築情報学会 建築情報学生レビュー 2022	最優秀発表賞	「BIMと強化学習を用いたドローンナビゲーションに関する基礎的研究」
Ali Mahdi Hussen	M2	SEATUC 2023	Best Oral Presentation Award	The Latent Power of Sustainable Tourism in Cultural Landscape Resilience in Taketomi Island, Okinawa Prefecture_Japan
丸山 俊	B4	日本建築材料協会	優秀学生賞	「石造物材料に対する CO_2 吸収条件の設定に関する研究」
下条 陸久	B4	日本建築仕上学会	卒業研究賞	「コンクリート躯体仕上材の評価方法およびその効果に関する研究」
渡邊 圭太郎	M1	日本建築学会建築社会システム委員会 第 37 回建築生産シンポジウム	若手研究者優秀発表賞	「IFC の属性情報を用いた建築確認自動化の可能性に関する研究 ～建築部材の防耐火適合判定を対象として～」
土屋 裕輝	M2	令和 4 年度空調調和・衛生工学会大会（神戸）	優秀講演(奨励賞)	運転実績データを活用した熱源システムの高効率運転支援システムに関する研究 (第 4 報) 新型コロナ禍による熱・電力負荷変化期間における負荷予測手法の妥当性の検証
鍋元 佑華	B4	2022 年度 wallstat 優秀卒業論文・修士論文賞	最優秀賞	鋼製ロッキング柱を有する木造住宅の倒壊解析
堤 竜輝	B4	2022 年度 wallstat 優秀卒業論文・修士論文賞	優秀賞	鋼製ロッキング柱を利用した中層建築の振動特性

設計など

鈴木 大祐	M1	2022 年度 日本建築学会設計競技　奥寿支部	入選	「未完の砦石場―かみんワイナリーを軸とした地域拠点の段次的再編―」
松浦 直生 + 浦沢 飛鳥 + 畑中 亮仁	M1	2022 年度日本建築学会関東支部第 23 回提案競技	佳作	大洗マツベルト
河本 一樹	B4	せんだいデザインリーグ 2023	ファイナリスト 10 選 (セミファイナル 1 位)	「中心について～天下普請の反転による対自空間の導出～」
並木 佑磨	B4	せんだいデザインリーグ 2023	100 選 & 運搬優秀賞 & 来場者投票賞第 8 位	「環境極界試論」
大橋 萌子	B4	せんだいデザインリーグ 2023	100 選	記憶のかけらを拾い集めて　―プラームスの小径に宿る水脈の浸潤―
關戸 麻魅	B4	せんだいデザインリーグ 2023	100 選	MARNI@Tokyo
岩崎 航	B4	せんだいデザインリーグ 2023	100 選	渋谷コモンズタワー ―既存超高層ビルのコンバージョン―
岳本 駿吳	B3	建築学縁祭～Rookie 賞～総合資格学院	100 選	ハザマ
吉川 大輝	B3	建築学縁祭～Rookie 賞～総合資格学院	100 選	機械学的形生空間
星 威太	B3	建築学縁祭～Rookie 賞～総合資格学院	100 選	木と家族の人生と家
岩崎 航	B4	赤れんが卒業設計展 2023	100 選	渋谷コモンズタワー ―既存超高層ビルのコンバージョン―
大橋 萌子	B4	赤れんが卒業設計展 2023	100 選	記憶のかけらを拾い集めて　―プラームスの小径に宿る水脈の浸潤―
加藤 優作	B4	赤れんが卒業設計展 2023	100 選	都市の産突点
佐々 真実	B4	全国合同卒業設計展「卒、23」	50 選 Day1 工藤浩平賞 Day2 山本和太郎賞	「「都市」を編む～都市・水・記憶のノードをつむぐ近代インフラの発掘的継承～」
河本 一樹	B4	全国合同卒業設計展「卒、23」	50 選	「中心について～天下普請の反転による対自空間の導出～」
加藤 優作	B4	全国合同卒業設計展「卒、23」	50 選	都市の産突点
四 祐太朗	B4	全国合同卒業設計展「卒、23」	50 選	旧道分三 SL 再生所 ―修理研修技術の保存と継承のために―
天野 稜、佐藤 亮和	M1	学生プロジェクトデザインコンペティション 2022	神田主税賞	「ペーパル廃再生プロジェクト」
奥 龍太郎	M2	Asia Young Designer Award 2022	優秀賞	「temporary enclosure」
吉原 拓実 + 杉山 真道	M2	COLOR MDF DESIGN COMPETION	最優秀賞	もくろず
星野 佑麻	M1	エイブル空間デザインコンペティション	優秀賞	HFW → home form workspace
星野 秀斗	B3	コクヨデザインアワード	ヨコク賞	mado
野中 宗近	B4	第 22 回 CS デザイン賞学生部門	銅賞	太鼓
小竹 隼人	M2	第 28 回ユニオン造形デザイン賞	優秀賞	ふるまいの共振
橋本 唯	M2	第2ミスのイコード学生プランニングコンペ	特別賞	時間ぐらし
岳本 駿吳	B3	東京建築士会住宅設計賞	入賞	ハザマ
中村 桜子	B4	北海道建築学会設計講評会 2023	高代賞	欲望の充填 ―抑圧された行為の遂行場―
並木 佑磨	B4	北海道建築学会設計講評会 2023	鶴石賞(格子賞)	「環境極界試論」
伊藤 杏佳		規制緩和地区における公共施設の実態 ―東京都の都市住宅地区に向けて―		
岡田 大和		先導的スマートコミュニティのエネルギーシステム技術に関する研究 ―再生可能エネルギーの出力変動に対するインバランス調整機能の検証―		
池見 亮太		CO_2 をベースとした室内汚染状況の評価に関する研究		
吉田 翔秀		大規模水産加工所のごみ排出とソーシャルネットワークの関係に関する研究 ―平成 27 年国勢調査における市町村の事例―		
工藤 愛菜		都市内緑地の連続性と緑を対象とする地域活動の相互性に関する研究 ―世田谷区を対象として―		
中島 桃		東京歴史文化まちづくり連携の可能性に関する研究 ―ポータルサイトの開設を通じて―		
佐藤 久騎		既震補強された RC 造学校建築物の性能評価 ―大宮 4 号館の耐震性能について―		
浦山 真		上川アイヌにおけるチセの建設技術に関する研究 ―旭川市・美山公園内のチセを対象として―		
廣田 このみ		木のデジタルファブリケーションに関する研究 ―指物の継手・仕口に関する検討―		
小室 義汰		亜硝酸リチウム添加型複層混合防錆剤の開発と評価		

理工学研究科建築学専攻

総代

谷井 美優	伝統的建造物群保存地区における街並景観に関する現状変更行為の研究 ―出雲市出雲市地区を対象として―

有元賞

鈴木 優太	営農型太陽光発電と景観との関係に関する研究
西山 健太郎	歴史的建造物の 3D アーカイブ作成 ―北海道余市三島を事例に―
村上 善志郎	災害拠点病院のエネルギーセンターにおける省エネルギー化・MCP 強化に関する研究 ―電気系統連機器による熱源システムの効率向上の有効性の検証―

専攻賞

大津 一彌	well-being に対する誘引システムを考慮した執務空間における執務者の行動分析に関する研究
小池 直樹	反式 CO_2 除去装置を用いた空調方式に関する研究 ―実証実験による室内環境および省エネルギー性能の評価―
小島 健士朗	知的障害者の歩行器と建築空間に関する研究 ―かいわい性による就労支援施設の開き方―
小松崎 稔	人の心の痛みを和らげる建築環境 ―マギーズセンターをモデルとして―
坂田 翔輝	屋外実験試験による外装木材の初期の外観変化に関する研究
田中 翔平	東京圏中心部の空地生成に関する研究 ―都心 6 区を対象として―
船田 彩香	地方都市コンパクトシティにおける先導的スマートコミュニティ技術に関する研究 ―エネルギーシステムの電力需給調整 VPP 電源としてのポテンシャルの検討―
新木 孝郎	かさねの「イエ」の私的から公的へ移る建築デザインにおける「イエ」の研究―
松下 裕介	廃棄物工場における神興の建築史的研究 ―地域性と大工技術に着目して―
盛本 美波	敬称行動に着目したウォークビリティを高める要件に関する研究 ―江東区における敬称の発生特性と詳細ルートの選択特性から―
吉本 有佑	取り残された住宅の再利用方法 ―「歴史、私史インテンション」による手法を用いて―

2022年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者

2022年度の芝浦建築会会費（会員3,000円／年・新会員1,000円／年）納入者及び寄付金を頂戴した皆様には厚く御礼申し上げます。納入していただいた皆様の卒業年と名前を下記に紹介させて頂きます。芝浦建築会の益々の活性化、発展のために有効に使わせていただく所存でおりますが、今後共、更なるご協力の程をよろしくお願い致します。（役員―同）

昭和23年
長谷川 基
仲田 秀色
菅原 光松
佐藤 久松
宇野 正明
池崎 博二
石川 信夫
伊東 道人
佐藤 公一
五十嵐 剛
有坂 政子
窪田 欣代
大武 昌
井上 雅男
石鍋 元章
藤井 和俊
藤森 正男
藤原 和俊
須田 一郎
和田 伸一
山田 洋
山口 登司
佐藤 幸好
三野 末治
水口 和幸
宮崎 州
中村 仁
鈴木 宏知
園田 一郎
黒沢 智子
野村 明男
進藤 浩幸
竹内 明彦
高司 一
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 健治
大橋 敏夫
辻 建
堀江 清
大橋 敏夫
広瀬 宣
須田 昌孝
石黒 正昭
北川 良和
柴田 邦彦
宮戸 治雄
北川 敏明
石井 敏明
山岸 米三
村上 隆
石田 一郎
原田 節郎
原田 好和
辻村 道
田口 経道
櫻井 光雄
菅澤 正義
櫻井 利雄
大谷 芳夫
横山 茂樹
長谷川 潔
戸山 芳一
塚田 米一
鈴木 秀幸
長谷川 潔
山口 茂樹
森 俊彦
横山 茂樹
塚田 米一
鈴木 秀幸
長谷川 潔
山口 茂樹
昭和24年
長谷川 恒
現教員
恒安 眞佐
現教員
岡崎 英
現教員
元教員
現教員
山代 悟
現教員
小幡 俊一
現教員
昭和25年
昭和53年
勢メ 和
岩澤 定保
岩澤 定保
昭和34年
岡部 雅雄
藤内 雄雄
昭和35年
高野 松寿
長塩 浩一
平沢 勇
昭和36年
生沼 義左
昭和37年
清田 清
刈谷 清彦
小野 孫武
佐藤 勝利
石田 義治
佐藤 一郎
増澤 信一郎
昭和38年
富永 正一郎
宮田 俊
村田 保
北山 松幸
昭和39年
櫻井 光雄
菅澤 正義
長谷川 潔
横山 茂樹
森 俊彦
横山 茂樹
昭和40年
村杉 隆夫
廣田 節郎
辻村 道
河合 誠
山岸 米三
石井 敏明
廣田 節郎
久保 俊郎
村杉 隆夫
大根 弘行
太江 秀次
枝広 俊郎
岩本 俊郎
平田 満
野崎 喜一郎
長谷川 潔
戸山 芳一
塚田 米一
鈴木 秀幸
長谷川 潔
山口 茂樹
昭和41年
吉田 勇
横山 一郎
辰巳 一郎
石鍋 元章
大武 昌
井上 雅男
石鍋 元章
藤井 和俊
藤森 正男
藤原 和俊
須田 一郎
辻村 道
昭和42年
窪田 欣代
五十嵐 剛
石川 信夫
和田 伸一
山口 登司
佐藤 幸好
三野 末治
水口 和幸
宮崎 州
中村 仁
鈴木 宏知
園田 一郎
黒沢 智子
野村 明男
進藤 浩幸
竹内 明彦
高司 一
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
昭和43年
池田 一郎
池田 宗雄
昭和44年
春日 芳子
曽根 稔
狩野 三雄
昭和45年
米澤 稔
家本 喜久雄
小野 孫武
増澤 信一郎
昭和46年
横山 茂樹
岩本 俊郎
枝広 俊郎
太江 秀次
平田 満
野崎 喜一郎
長谷川 潔
戸山 芳一
塚田 米一
鈴木 秀幸
長谷川 潔
山口 茂樹
昭和47年
山田 一郎
竹内 一
高橋 茂
昭和48年
長井 義明
玉井 賢一
直海 秀紀
永海 文治
重原 雅
染谷 清
高田 利則
鶴澤 智信
猪原 修
宮崎 修
北川 亨
宮本 博
宮島 正浦
松塚 昇
増山 昇
不破 隆夫
西村 修
昭和49年
河合 誠
鹿沼 剛
亀田 實
大根 弘行
川上 秀次
枝広 俊郎
岩本 俊郎
平田 満
野崎 喜一郎
長谷川 潔
戸山 芳一
塚田 米一
鈴木 秀幸
長谷川 潔
山口 茂樹
昭和50年
岡本 保
加藤 泰久
今西 正治
今西 正治
昭和51年
和田 伸一
藤原 正男
藤井 和俊
藤森 正男
藤原 和俊
須田 一郎
辻村 道
昭和52年
宮崎 州
中村 仁
鈴木 宏知
園田 一郎
黒沢 智子
野村 明男
進藤 浩幸
竹内 明彦
高司 一
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
昭和53年
石田 周広
石田 義治
伊藤 哲
石田 義治
石田 周広
根岸 史
内藤 泰成
森 川礼
宮島 正浦
宮本 博
宮崎 州
中村 仁
鈴木 宏知
園田 一郎
黒沢 智子
野村 明男
進藤 浩幸
竹内 明彦
高司 一
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
昭和54年
長井 義明
玉井 賢一
直海 秀紀
永海 文治
重原 雅
染谷 清
高田 利則
鶴澤 智信
猪原 修
宮崎 修
北川 亨
宮本 博
宮島 正浦
松塚 昇
増山 昇
不破 隆夫
西村 修
昭和55年
河村 和明
柏本 保
加治 吉久夫
枝広 秀子
牛山 信康
岩瀬 繁
杉山 政市
今井 真
吉見 光雲
水口 誠
河村 和明
柏本 保
加治 吉久夫
枝広 秀子
牛山 信康
岩瀬 繁
杉山 政市
今井 真
吉見 光雲
水口 誠
昭和56年
村田 優
藤井 重介
鴻海 雅人
長橋 憲一
添川 光雄
清水 博
竹内 孝文
佐藤 守
片倉 隆雄
石田 信
石田 信
佐藤 幸好
山口 登司
鷹取 達夫
鷹取 達夫
前田 俊紀
張替 正紀
美原 除太郎
美原 除太郎
宮崎 州
中村 仁
鈴木 宏知
園田 一郎
黒沢 智子
野村 明男
進藤 浩幸
竹内 明彦
高司 一
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
昭和57年
郷田 修身
荻野 健治
渡辺 昌秀
宮崎 康雄
藤川 博
栗原 常樹
川原 逸朗
三浦 逸朗
三浦 逸朗
宮崎 康雄
栗原 常樹
川原 逸朗
三浦 逸朗
平成1年
竹内 明彦
砂川 公一
池田 義司
高司 一
野村 明男
進藤 浩幸
竹内 明彦
高司 一
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
平成2年
秋原 光奏
鳥越 貴良
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
平成3年
大川 魁斗
本木 祐宇
近藤 実
安部 電平
岩松 陽
安藤 佳織
安部 電平
岩松 陽
近藤 実
平成4年
鈴木 剛
平成5年
島田 宏
小田部 敏也
平成6年
大成 田
田中 大成
宮下 側
藤本 明
藤本 明
平成7年
倉田 明久
篠塚 一雄
平成8年
石黒 光
田下 部
志村 太郎
千葉 正夫
平成9年
青木 哲也
平成10年
秋山 本由
小林 さゆり
小林 さゆり
平成11年
本多 桂
上原 志朗
関 裕紀子
平成12年
吉田 秀
古市 雅宏
藤原 直俊
藤原 直俊
平成13年
藤原 直俊
平成14年
藤原 直俊
平成15年
東 小川
関 佳彦
平成16年
東 小川
関 佳彦
平成18年
萩野 正和
宮下 康仁
平成19年
岡井 公一
平成20年
西浜 清則
平成21年
前田 秀
平成22年
白岩 伸介
新垣 達也
平成24年
安田 和夫
長谷部 善紀
平成26年
鬼頭 紀彦
石川 亮
平成28年
勝俣 輝行
平成29年
調知 征
平成30年
築館 明
令和1年
鳥越 貴良
令和2年
秋原 光奏
鳥越 貴良
令和3年
安部 電平
安藤 佳織
岩松 陽
近藤 実
令和4年
大川 魁斗
本木 祐宇
安部 電平
安藤 佳織
岩松 陽
近藤 実
令和5年
金子 文香
加藤 優作
加藤 優作
小野 純一
小野 純一郎
落合 紘岩
越智 真人
小高 和人
小高 和人
岡部 正斗
岡田 正
尾形 幸雄
岡田 一郎
大橋 敏夫
辻村 道
令和4年
鈴木 愛菜
令和5年
鈴木 愛菜
辻 清輝
昭和25年
河合 誠
昭和26年
鹿沼 剛
昭和27年
亀田 實
昭和28年
大根 弘行
昭和29年
太江 秀次
昭和30年
枝広 俊郎
昭和31年
岩本 俊郎
昭和32年
平田 満
昭和33年
野崎 喜一郎
昭和34年
長谷川 潔
昭和35年
戸山 芳一
昭和36年
塚田 米一
昭和37年
鈴木 秀幸
昭和38年
長谷川 潔
昭和39年
山口 茂樹
昭和40年
今西 正治
昭和41年
今西 正治
昭和42年
加藤 泰久
昭和43年
岡本 保
昭和44年
村田 保
昭和45年
北山 松幸
昭和46年
佐藤 一郎
昭和47年
佐藤 一郎
昭和48年
増澤 信一郎
昭和49年
石田 義治
昭和50年
石田 周広
昭和51年
石田 義治
昭和52年
根岸 史
昭和53年
内藤 泰成
昭和54年
森 川礼
昭和55年
宮島 正浦
昭和56年
宮本 博
昭和57年
松塚 昇
昭和58年
増山 昇
昭和59年
不破 隆夫
昭和60年
西村 修
昭和61年
西村 修
昭和62年
宮島 正浦
昭和63年
松塚 昇
平成1年
増山 昇
平成2年
不破 隆夫
平成3年
西村 修
平成4年
西村 修
平成5年
西村 修
平成6年
西村 修
平成7年
西村 修
平成8年
西村 修
平成9年
西村 修
平成10年
西村 修
平成11年
西村 修
平成12年
西村 修
平成13年
西村 修
平成14年
西村 修
平成15年
西村 修
平成16年
西村 修
平成18年
西村 修
平成19年
西村 修
平成20年
西村 修
平成21年
西村 修
平成22年
西村 修
平成24年
西村 修
平成26年
西村 修
平成28年
西村 修
平成29年
西村 修
平成30年
西村 修
令和1年
西村 修
令和2年
西村 修
令和3年
西村 修
令和4年
西村 修
令和5年
西村 修
令和5年
西村 修
令和5年
西村 修
令和5年
西村 修

＊会費送付後に記載漏れがあり、ご迷惑をお掛けしました。以下の卒業生の方となります。

昭和47年卒　松田悦朋 様

イベント写真

大講義室での学位記授与式　23年3月22日

秋元学部長より学位記授与　23年3月22日

デザインチャンピオンシップの懇親会で坂茂先生と切刀会長　23年12月3日

会計報告

2022年度　会計報告

収入	繰越金		1,925,897
	年会費	378 名× 3,000 円	1,134,000
	旧年会費	5 名× 2,000 円	10,000
	新卒会費	293 名× 1,000 円	293,000
	寄付	238 名	690,000
	記念誌	1 冊	3,500
		小計	4,056,397
支出	会報	印刷 10,600 部、封筒 10,050 枚 払込票 9,988	585,312
	同上封入代	目隠しシール、返信ハガキ 9,988 枚	239,512,
	同上発送料	82.5 円× 9,988 通	824,010
	同上追加発送料	封筒 330 枚含む	40,989
	同上デザイン	構成料他	110,000
	旧建友会会報	発送料一式　576 部	116,828
	ホームページ	サーバー・ドメイン費（2022 年度分）	15,610
	同上	ドメイン費（2021 年度分）	2,640
	同上	旧建築会サーバー費及び維持費	18,172
	学校行事支援	デザインチャンピオンシップ	127,591
	事務費	振込手数料	1,485
		小計	2,082,149
	次期繰越金		**¥1,974,248**

2023年度　予算案

収入	繰越金		1,974,248
	年会費	300 名× 3,000 円 / 年	900,000
	新卒会費	300 名× 1,000 円 / 年	300,000
	寄付	200 名	500,000
		計	3,674,248
支出	会報	印刷 1200 部、封筒 700 枚	200,000
	同上発送料	700 通	70,000
	同上デザイン	構成料他	110,000
	学校行事支援	デザインチャンピオンシップ	150,000
	総会案内状	往復はがき・印刷 400 部	100,000
	在学生の顕彰	優秀者への記念品等の授与	150,000
	卒業パーティ	出席と祝辞	10,000
	事務費	ゆうちょ銀行印字サービス料	2,020
		払込手数料	2,000
		HP 維持費	20,000
	予備費	講座、レクチャー等	500,000
		計	1,314,020
	繰越金	**計（円）**	**2,360,228**

2023年度役員

会　　長：　切刀　強1976卒
副 会 長：　百瀬和浩1985卒　川口英樹1990卒　秋元孝之（建築学部長）
事 務 局：　事務局長　鈴木泉1986卒、事務局員　宮谷　敦1986卒
会　　計：　郷田修身1991卒（幹事兼務）　浅見　勝1976卒
会計監査：　辻村　建1971卒　加治喜久夫1974卒
幹　　事：　松寿　章1978卒、石山英行1980卒
片倉隆幸1981卒、道田　淳1993年卒、水谷晃啓2007卒
長谷部美紅2012卒、鶴浩一郎1988卒、下田恭子1997卒、
井筒悠斗2023年卒
郷田修身（SA コース代表･会計兼務）､志手一哉（UA コース代表）、
山代　悟(AP コース代表）
顧　　問：　田口継道1964卒、枝広英俊1971卒、染谷　清1969卒

編集後記

この度、ＨＰ掲載の『卒業生の輪』をベースに卒業生の方々の現状や抱負の投稿と大学研究室紹介などをお伝えできればと会報第２号の発行となりました。2024年６月22日の第三回定期総会のお知らせなど、今後ますます、卒業生の皆様と繋がる機会を増やして参りたいと思う所存です。年の瀬も押し迫り、ご自愛して頂くと共に明るい年を迎えられる事を祈念しております。今回､寄稿をして頂いた方々をはじめ､編集協力して頂いた いとうたけひこ様に感謝致します。

●お問い合わせ ： info@sit-archi.com
●発行者 ： 芝浦工業大学　芝浦建築会　〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5